

第79回「萩句会報告」 (順不同)

日時 2015年12月14日 (月) 14時～17時

兼題「飾り売り」

- 川井素山 ○雪嶺を帯に染め行く朝日かな
薄き日や落葉の嵩の切通し
江戸風姿残る神田の飾売
散紅葉丸く縁取る苔の庭
- 保井寶正 ○飾売り法被鉢巻モダンなる
丹精の赤い実つつく二羽の^{ひよ}鶉
熱爛やゆったりと腑におちつけり
日捲^{めくり}の薄くなりをり十二月
- 青木英林 ○朝練の子等の掛声息白し
飾り売り今年もここに幾十年
本年の仕事納めに蕎麦を打つ
梟のいそうな気配深き森
- 後藤克彦 ○声釣られ見栄張りて買ふ大熊手
鈴生りの柿数競ふ里の村
古希過ぎてなほ忙しき師走かな
年毎に少なくなりし飾売
- 佐久間喬 ○薪割りの音こだまして八ヶ岳
また一人減りし友等と年惜しむ
喪の知らせ指折り数えて賀状書く
貧乏くじ引いて求める注連飾
- 丸山酔宵子 ○紅葉且つ散る山門の苔の庭
空き腹に熱爛五臓六腑まで
甲斐の山葡萄紅葉が段々と
臼杵ではタレに肝溶き喰うてつき

菊地崇之 ○枯蔦やチャペルで祈り若き日は
神田川湯ざめも怖い二人連
飾売り安全祈願早備え
つゆ足すや寄せ鍋の締餅入れる

牧野里山 ○辻地藏冬日を浴びて屹立し
境内の小屋がけ急ぐ年の暮
年の暮観音巡り結願し
冬雀餌を求めて群れをなし

吉田啓悟 ○木守柿白き峰より高きかな
薪もやしあたたかいよと飾売
ポケットに手紙を残し落葉焚
一瞬の瞳によぎる冬紅葉

佐久間たか子^{かくれい}○鶴唳の響いて空をつくごとし
小春日に墓碑を磨きて心満つ
夕暮に裸電球飾り売り
湯豆腐の済んで主役の利尻昆布

山本草風 ○冬の寺悟り教える丸き窓
しぐるるやローカル線のわびしさよ
ラガーマンハーフタイムにレモン食ふ
飾売客も売り手もしわ多し

金森純女 ○火の用心夜目にもわかる服を着て
飾り売り足とめさせる褒め言葉
冬蝶やゆらりゆらりと恋をせよ
室咲の見舞い枯らしてしまいきり

中山志津久 ○寄る年波難破しそうな師走かな
落葉踏む雲無き山の眠りをり
佐助の葉を拭く母に教え請う
寒さ耐えミツバツツジが凜と咲く

大山龍海　　○飾り売り来る年占う帰り道
木の葉散り青空澄みて宇宙あり
来る年に思いを秘めた飾り売り
桜樹の葉散り落ちて冬将軍

次回「萩句会」

日時　2016年1月11日（月）14時～17時

兼題『風花』『探梅』一句

当季雑詠三句　計四句

場所　下目黒住区センター第二会議室